

附属情報図書館の取組みについて — 日本にない大学の中心で知を探る —

浜田 正彦* 濱田 佳奈子**

*, **高知工科大学附属情報図書館

〒782-8502 高知県香美市土佐山田町宮ノ口185

E-mail: *hamada.masahiko@kochi-tech.ac.jp

要約：情報図書館は、県内唯一の工学系大学図書館であり、学術ネットワークの拠点として、教育、研究に必要な情報収集活動を支援することを目的としている。利用者が親しみやすく、快適に利用できることを目指している情報図書館の最近の取組みを紹介する。

Abstract : From the time of the founding of Kochi University of Technology, the information library has been a unique library in the prefecture, designed especially for students and researchers who specialize in engineering. This report describes the library's development and activities, and provides some statistical data.

1. はじめに

大学は、教育・研究と社会貢献という基本的機能を営む複合的組織であるといわれ、この三つの機能の根底には、大学の役割を象徴する「知」が流れている。教育は「知の伝達」、研究は「知の創造・獲得」、社会貢献は「知の応用」であると言える。そのため、様々な形態の情報を集積する大学図書館は、その象徴として大学キャンパスの中心に位置することが多い。本学の場合も例外ではなく、池に囲まれたキャンパスの中心に設置されている。しかし、時代の流れとともに大学図書館を取り巻く環境は、大きく変化してきている。従来は「知の集積」を担うことに役割の重点を置いていたが、これからは「知の発信」、すなわち収集した情報を加工・発信するという機能が大学図書館として重要な役割の一つになってきている。また、ICT化に伴う電子

媒体の発達や情報のビジュアル化の進行に伴う図書離れは、学生の文章力の低下などをまねいていると言われており、関係部署と図書館の連携による取組みの違いにより、大学の教育力に大きな格差が出てくる一つの要因になっていると思われる。

本学においても図書離れと電子化という事柄は、図書館の課題として認識している。このことに対応するために、地方の小さな単科大学で行っている様々な取組みを紹介する。

2. 情報図書館の概要

情報図書館は、明るくゆったりとした閲覧室、約20万冊の収蔵能力を有する書庫、学生が24時間利用できるメディア学習室や情報閲覧室などを加えた3階建ての施設で、特に池に面した半円形のガラス窓からの眺望はすばらしく、本学

を象徴する風景の一つでもある。開学して10年、工学系大学図書館として、工学系に必要な教養・専門図書及び視聴覚資料のほかに、大学院起業家コースの資料として、経済・経営関連の図書なども数多く備えている。購入、寄贈図書や製本雑誌を含めた蔵書数は88,000冊強で、最近は年間4,000～5,000冊程度の増加数である。

表1 蔵書数（平成19年2月末現在）

図書種類	図書蔵書数	
和書	55,283	67,684
洋書	12,401	
製本雑誌（和）	4,001	15,617
製本雑誌（洋）	11,616	
カセットテープ	165	4,979
ビデオ	2,876	
CD	611	
CD-ROM	318	
LD	88	
DVD	878	
フロッピーディスク	3	
スライド	40	
合計	88,280	

一方、平成15年に100万人を突破した入館者数は、その年をピークに減少している。学生1人当りの図書の貸出数は、平成11年度（大学院開設の年）の7.4冊をピークに減少をしていたが、ここ4年間は前年比を上回る伸びを示している。平成16年度から実施している図書館ガイダンス（3.1「図書館ガイダンス」参照）やベストセラー本を中心とした話題本の購入（3.2「話題本」参照）などの取組みの成果と思われる。

表2 年度別図書館入館者数・貸出数

	入館者数	図書貸出数	学生1人当りの貸出数
平成9年度	78,640	4,174	5.6
平成10年度	108,893	6,533	5.4
平成11年度	143,249	12,647	7.4
平成12年度	176,171	16,419	7.0
平成13年度	185,000	13,094	4.4
平成14年度	183,433	11,920	4.2
平成15年度	200,988	12,322	4.9
平成16年度	185,878	16,967	6.3
平成17年度	176,645	18,467	6.6
平成18年度 （1月末まで）	154,569	18,799	6.6
合計	1,593,466	131,342	

3. 親しみやすい図書館

大学の授業に関連した学びだけでなく、情報図書館を通じた広い意味での学びの場を提供できればと考え、多くの学生、教職員や地域の人たちに情報図書館に足を運んでもらうために「親しみやすい図書館」を目指している。ここでは、その主たる取組みを紹介する。

3.1 図書館ガイダンス

平成16年度から図書館員の手作りで、新入生の「図書館ガイダンスブック」を作成し、情報図書館の施設案内に始まり、利用手続きや図書資料の探し方などを分かり易く解説している。教育講師の先生方と連携し、4月から5月にかけてスタディスキルズの授業の中で、ガイダンスブックを活用した図書館内でのOPACの操作法や図書資料の探し方などの講習を実施している。このため、この講習を実施する以前に比べ、学生が本の借出しなど図書館利用を自主的にできるようになっている。

3.2 話題本

学生の読書離れを改善するための取り組みとして、本学後援会の協力をいただき、平成16年10月に話題本コーナーを設置した。このコーナーには、リクエストされた図書やベストセラー本をはじめとする小説、ビジネス書、エッセイ、絵本等、気軽に読めるものを図書館員が選書して並べている。

設置場所は、情報図書館に入ってすぐの1階フロアとした。そのため、利用者のアクセスが容易であり、休み時間や空き時間に読書する学生を見かけることが多くなった。

現在までに平成16年度124冊、17年度157冊、18年度284冊（2月28日現在）を購入し、学生だけでなく、教職員・地域の方々にも広く利用されている。今後も利用者の視点に立って、時代性とニーズに応じた図書を増やしていきたい。



図1 話題本コーナー

3.3 地域開放

(1) ミニ展示

ゆったりしたスペースを持つ情報図書館の1階エントランスの空間を利用して、希望者に写真や絵画などのミニ展示が行えるように開放している。平成16年10月に実施した本学の河津教授の写真展を皮切りに、現在まで12回のミニ展示と、1回の特別展示を行った。初回に展示された写真は、ミニ展示終了後も地元郵便局や越知町立横倉山自然の森博物館で展示されるなど

地域の方にも楽しんでいただいた。また、本学の赤澤教授の特別展示「異民族のまなざしー古写真に刻まれたモンゴロイドー」は、数年前に東京大学総合研究博物館で開催したものを基に、本学情報図書館の空間を生かしながら独自に構成した本格的な展示会となった。展示会の開催に当たっては、地域の商店等に広報ポスターを掲示していただくなど協力を得た。今年度は、地域の県立山田高等学校と本学留学生の書道による合同展覧会を行い、地域交流の一助となっている。



図2 ミニ写真展風景

以下に過去13回の展示の内容を紹介する。

- ①花の写真展 16年10月12日～30日
電子・光システム工学科 河津哲教授
- ②高知の自然写真展 16年12月6日～18日
電子・光システム工学科 河津哲教授
- ③鏡野公園の野良ネコたち写真展
16年12月20日～17年1月8日
電子・光システム工学コース 松久治可君
- ④土佐の祭写真展 17年1月12日～28日
電子・光システム工学科 河津哲教授
- ⑤柏島の海ー柏島のさかなー写真展
17年3月18日～30日
知能機械システム工学科 原田淳教育講師
- ⑥柏島の海ー柏島のハゼー写真展
17年7月20日～28日
知能機械システム工学科 原田淳教育講師

- ⑦ヒラノマコト・ハーティーイラスト展
17年12月14日～28日
起業家コース 平野真教授
- ⑧鉄道とくらし写真展
18年1月12日～30日
知能機械システム工学科 河田耕一教授
- ⑨ヒラノマコト・タブロー展
18年2月1日～2月28日
起業家コース 平野真教授
- ⑩柏島の海 ―柏島のエビー
18年5月10日～5月24日
知能機械システム工学科 原田淳教育講師
- ⑪特別展示 異民族のまなざし ―古写真に刻まれたモンゴロイド―
18年6月5日～7月23日
総合研究所 赤澤威教授



図3 特別展示写真展ポスター

- ⑫柏島の海 ―柏島のカーニ―
18年11月7日～11月22日
知能機械システム工学科 原田淳教育講師
- ⑬高知工科大学留学生・県立山田高等学校合同
書道ミニ展覧会 19年2月2日～2月13日

(2) 地域利用

本学は、塀のない開放型で、隣接している県

立鏡野公園と併せて地域の多くの方々に利用されている。情報図書館も施設や展示会の見学だけでなく、図書利用についても、地域の方々に開放している。社会人、卒業生が、資料の閲覧や館外貸出などをおこなったり、小学生が、夏休みの宿題に利用するなど多くの方に親しまれている。

3.4 図書館ニュース

図書館ニュースは、図書館広報の一環としてウェブサイトに掲載している。内容は、話題本の入荷、展示会の開催、データベースや電子ジャーナルのトライアル情報などをA4判2枚にまとめ、必要に応じて発信している。

4. 利用しやすい図書館

本学は開学して10年が経ち、図書館機能や利用の仕方にも変化が見られる。ICT化に伴う電子媒体の発達により、図書館に足を運ばなくても必要な情報が手に入る時代となり、それに即した対応が必要になっている。

本学情報図書館では、学生・教職員の情報利用・活用のための必要性を認識し、高知県の香美市にいても、世界中の最新の情報が収集でき、また本学の知的情報を積極的に発信できるように学生や教員の研究活動のサポートに努めている。ここでは、「利用しやすい図書館」を目指した主たる取組みを紹介する。

4.1 電子化等の取組み

雑誌の電子化等の取組みについては、電子媒体の活用も含めたネットワークの構築、外国購読雑誌の冊子体から電子ジャーナルへの移行、論文・学会誌等の専門資料への検索機能の強化などの充実を図っている。

(1) 電子ジャーナルへの移行

電子ジャーナルの購読は、まず平成13年度からエルゼビア社のサイエンス・ダイレクト24タイトルから始めた。また、平成14年度にはJPLA

(日本薬学図書館協議会) 電子ジャーナルコンソーシアムに加入し、化学系ジャーナルの購読も始めた。平成15年度には、PULC (私立大学図書館コンソーシアム) が設立され、それに併せて加入した。平成16年度からはPULCを活用して、Wiley、Springerなどの購読を進めることで、表3のように外国雑誌の電子ジャーナルへの移行(高度情報化推進特別経費対象事業)を進めた。今後もできる限り推進していく。

表3 外国雑誌の電子ジャーナルへの移行状況

		冊子体 *	電子媒体	合計
15年度	契約タイトル	147	49	** 169
	閲覧可能タイトル	147	49	** 169
16年度	契約タイトル	147	58	** 170
	閲覧可能タイトル	147	*** 約 1,447	約 1,559
17年度	契約タイトル	61	132	193
	閲覧可能タイトル	61	*** 約 1,561	約 1,622
18年度	契約タイトル	57	136	193
	閲覧可能タイトル	57	*** 約 1,565	約 1,622

注) * 電子媒体とのセット契約を含む

** 重複するタイトルがあるため、計算上の合計が一致しない

*** コンソーシアム加入の特典により、契約以上のタイトルが閲覧できる

(2) データベースの導入

学術情報検索機能の充実については、平成16年度にSciFinder(化学情報協会)の導入に始まり、翌17年度にはScopus(エルゼビア社)やJDream(科学技術振興機構)などを導入した。現在は、学生・教員からの要望も含め、6データベース(高度情報化推進特別経費対象事業)の導入に

至っている。

4.2 紀要・学位論文等

(1) 学生の学位論文の公開

学部生の卒業論文、大学院生の学位論文とともに1期生の卒業・修了時からウェブサイトに掲載し、広く公開している。公開する意義は、

- ① 公開することで教員が学生に対する論文指導を適正に行うという教育的な視点
- ② 教員だけでなく、学生の研究も広く発信することで、大学と社会の連携を深める一助となる

という2点である。

これまでに卒業論文947編、修士論文416編、博士論文74編を公開している。

(2) 紀要

平成16年3月に本学設立の背景や趣旨、開学後の大学内外の教育の取組み、地域貢献及び研究成果等をまとめて第1巻を発刊した。以後、毎年単なる研究に関する論文集ではなく、プロジェクト研究報告など大学の活動やその存在意義等について、教職員の投稿をまとめて発刊している。

4.3 機関リポジトリ

機関リポジトリ(institutional repository)は、「大学等の学術機関内で生産された、さまざまな学術情報を収集、蓄積、配信することを目的とした、インターネット上のサーバー」であると定義され、次の2つの問題の解決策として注目されている¹⁾。

- ① 学術コミュニケーションをめぐる危機的状況：商業出版社に独占されている学術情報流通の主導権を研究コミュニティに取り戻すことが可能となる。
- ② 大学からの情報発信の強化：利用者は、リポジトリにアクセスすることを通じて、大学から発信される研究成果を一元的に入手・活用し、大学は、社会に対する説明責任や

研究の視認性の向上を果たすことになる。

このような取組みは、海外ではカリフォルニア工科大学、MITなどで実施されていたが、国内では千葉大学が平成16年度から先進的に運用を開始している。

また、NII（国立情報学研究所）では、国内大学、研究機関におけるリポジトリの構築と運用を支援する事業を開始した。平成17年度には、次世代学術コンテンツ基盤共同構築事業として試行的に全国17大学に委託し、平成18年度には、全ての大学に受託事業（受託研究）として公募を行った。

本学は、教員評価システムにより評価基準の一つとして各教員に論文等の提出を義務付けているほか、研究者カルテの整備も進めている。また、既に学位論文、紀要、教材などを電子化し公開している。これらのシステムを連携させることで、リポジトリの実施は可能と判断し、5月に作業部会を立ち上げ、受託事業に申請を行った。7月に本学を含む57大学（うち私立大学10大学）が採択された。採択された大学のほとんどは、規模の大きい総合大学で、本学は最も規模の小さな単科大学で、中四国地区の私立大学では、本学のみであった。

本学のリポジトリ構築への取組みは、平成19年10月運用開始を目標に先進的な大学を参考としながら進めている。しかし、小規模な大学として活用資源（人、予算、シーズ）等も限られているので、次のように取り組むこととしている。

まず、各教員の研究業績・資料の整理が不十分であるので、この事業を活用することにより、教員の研究業績の整理と蓄積という「知の集積」を最優先に進め、できるものから「知の発信」を行う。既に蓄積・公開している学位論文・紀要などもリポジトリ構築のコンテンツとしてより広く公開する。このような活動を通じて大学の社会的な説明責任と研究の視認性の向上を図る。

リポジトリ構築は、本学の情報を容易に世界

に向けて情報を発信でき、他大学の研究情報もリポジトリを通じて容易に見ることができるので、本学情報図書館の目的の一つである「利用しやすい図書館」の推進エンジンになる。

なお、本学のリポジトリの取組み状況の詳細については、本紀要に掲載の「高知工科大学学術情報リポジトリの導入について」²⁾を参照していただきたい。

5. 今後の事業の取組みについて

本学情報図書館は、「親しみやすい図書館」と「利用しやすい図書館」という目的を掲げている。この2つの目的には、学部生を中心とする教育的な資料に重点を置くか、教員・大学院生用の研究資料等に重点を置くか、また図書館に足を運ぶ必要があるか、時間的な制約を受けるかどうかなど、図書館施設の利用方法においても異なる面を持っている。その異なる利用目的や方法に対してリソースをどのように調整・達成していくかを、利用者の価値を高める活動を基本に置きながら、今後の事業に取り組んでいく。

「親しみやすい図書館」の活動としては、レファレンスなどの利用者サービスについては、限られた人的資源の中で難しい面もあるが、できる限り実施していく。図書を受け入れに関しては、大学図書館として、工学系の専門書などを配置していくことも重要であるが、学生の人間力の向上が言われる昨今、学部生向きの教養図書などの受け入れにも重点を置いていきたい。例えば、話題本の強化や漫画本の購入など公共図書館が取り組んでいる分野にも領域を広げていきたい。

また、「地域との共生」をキーワードに地域にある大学として、図書館の情報をどのように生かしていけるのか、地域に開放された大学施設を含め、本学情報図書館を身近なものとして感じられる取組みを今後も構築していく。

このような活動を通じて、「親しみやすい図書館」として、学生の図書館利用の向上を図って

いく。

「利用しやすい図書館」の構築の手段の一つとして、電子ジャーナルやデータベースの購入を進めてきている。しかし、毎年、外国雑誌（電子ジャーナルを含む）が値上がりしており、予算面からの対応が難しくなっている。経費的な課題もあるが、今後も教員の理解も得ながら冊子体から電子媒体への移行を進め、教員・学生が研究室にいながら時間の制限なく、論文等の資料にアクセスできる環境を整えていく。

また、平成19年10月に運用開始を予定しているリポジトリは、本学の情報発信だけでなく、その情報を利用したい人たちにとって、いつでもどこでも手に入れることができる情報ツールとしても利用されることになる。電子ジャーナル、データベースと併せて「利用しやすい図書館」推進の核となると期待している。

謝辞

本学における情報図書館の取組みの推進にあたっては、ミニ展示会の開催にご協力をいただいた本学教員をはじめとする関係者の皆様、話題本とその本棚の購入に関して高知工科大学後援会のご支援に感謝いたします。

また、執筆にあたってご協力をいただいた坂本明雄情報図書館長と図書館事務室員の皆様に感謝いたします。

文献

- 1) 尾城孝一, 杉田茂樹, 阿蘇品治夫, 加藤晃一 ; “日本における学術機関リポジトリ構築の試み”、情報の科学と技術、54巻9号(2004)
- 2) 北村多樹子 ; “高知工科大学学術情報リポジトリの導入について”、高知工科大学紀要、第4巻第1号(2007)